



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第35回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

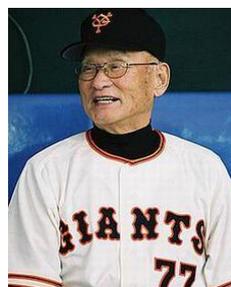
マナー編 先輩の導き

川上哲治さんが亡くなりました。球児の大先輩から改めて学ぶべきことを教えてください。

夏2回、春1回の甲子園大会に出場し、2回の準優勝を経験された選手でした。戦前から戦後を通じて日本の野球界を代表する投手となりました。プロ野球での選手・監督としての足跡もですが、球児の大先輩を偲(しの)びます。

川上さんは5歳の時に右腕を負傷、治療に半年を要したために左腕で投げ始めたことが、後に左腕投手として活躍するきっかけでした。戦争の苦難な時代にあって、道具も不備な物ばかり。それは今の選手諸君にはわからない事情かも知れません。苦労の野球人生の中で、「**ベースボールはチームプレー**」を大切にすることが知られます。V9巨人軍の監督引退後は少年野球の指導に専念。「選手の個々に見合った指導方法」のための学びを指導者に説きました。

選手・監督時代を通じて、審判の判定に対する選手の不服、不満には厳しく対処したことが語り継がれています。常々の「野球人の紳士たれ(であれ)！」の言葉は、「**スポーツマン精神に生きる球児たれ!**」と呼びかけているようです。



ルール編 危険防止

3アウト目が捕手の打順で攻守交代となりました。投手の準備投球を受けるため、ベンチの控え捕手が出て来ましたが、球審は立ったままで捕球するように伝えているようです。座って準備投球を受けさせてやりたいと思いますが…?

試合中の捕手には、ヘルメット(SGマーク付)・マスク(スロートガード付)・プロテクター・レガース・急所カップの着用が義務付けられています。これらの防具を着用していても、捕手には体を張って後逸を防いだり、ファウルボールが当たるなど、ケガをする危険性が常にあるのです。準備投球といえども危険防止の観点から、高野連主催試合では、「大会運営の留意事項」で次の通り規定しています。(④⑤項)

- ④ **捕手のヘルメットは、頭部が十分保護されているものを着用する。**〈SGマーク〉のシールが貼りつけられていることを確認する。また、**捕手のスロートガードと急所カップの着用を義務付ける。**
- ⑤ **捕手が座って投球を受けるときは(ブルペンも含む)、必ず捕手用具を着用しなければならない。**

上記では、捕手が装着すべき用具が欠けていたために、立って捕球するよう指導しました。準備投球を受けるために、ブルペンから必死に走ってくる控えの捕手も大事ですが、スムーズな守備を整えるためには工夫も必要でしょう。捕手以外の控え選手で防具を付けていなくても、立ったままでピッチングの相手をすることは可能です。控え捕手の負担軽減も考えられます。また、試合相手を待たせないスピード感、守備のリズムを整える大切な要素に連携しているからです。

